

マレーシアにおける保育者の異文化受容について

笹森 栄
(東京家政大学大学院)

＜研究の意図＞

今日、国境を越えて人と人との関わりが増し私たちは国内外で異なる文化に触れる機会が多くなっている。我が国の国際協力の一環を担っているJOCV(青年海外協力隊)の諸外国での技術移転活動もまた異文化接触の機会といえよう。そこではJOCVの隊員と派遣国の人々との異文化交流が見られているのではないだろうか。

マレーシアのFELCRA(連邦土地統合整備公団)では1984年以降11年間に渡りJOCVによる保育技術指導を受けている。マレーシアはマレー系、中国系などから成る多民族国家であり、FELCRAは国の経済の向上と貧困層の生活の向上を目的とした公団である。FELCRAは2001年までに14保育園を開園している。保育の専門教育を受けていなかった保育者への保育技術指導の為に10保育園に15名のJOCVを受け入れていた。FELCRA 保育園の保育者にとってJOCVの保育技術指導を受けた事は異文化受容の機会と考えられる。

JOCV活動期である1990～1995年と活動収束後の2000～2001年の保育園における遊びの変化の有無と要因について明らかにし、遊びに影響を与えている保育者の保育に関する考え方がJOCVとの関わりによる異文化受容であるのか分析する。そこで開園年、開園地域などの異なる3保育園の保育者を対象に、保育者への聞き取り調査を実施する事とした。

本研究の意図は、FELCRAの保育園における保育者がJOCVの保育技術指導を受け、どのような異文化受容をおこなったのか、1991～95年当時と2000～2001年の遊びの変化を通して明らかにする事にある。

＜研究方法＞

[対象] FELCRAのRC、ST、SPの保育者、元保育者の計26名。①保育園名、②開園年、③現職保育者数：元保育者数、④通算JOCV活動期間(年)は以下のとおりである。

- ① RC 保育園、②1986年、③4：6、④6年6ヶ月
- ① ST 保育園、②1990年、③3：6、④3年
- ① SP 保育園、②1991年、③3：4、④3年6ヶ月

JOCVの保育技術指導を受けた保育者(元保育者)は全員が該当園を退職している。

[期間] 2000年9月1日～同年9月13日
2001年2月28日～同年3月14日

[時間] 一人約1時間30分～2時間程度。

[場所] 現職保育者(以下現保育者と略す)は各保育園で実施、但し本人の希望により2名は対象者宅で行い。転勤、退職した元保育者は対象者宅で行った。
[内容] 園児の遊び、JOCVとの関わりにより異文化と意識した事などを対象者から聞いた。主に記述したが一部VD撮影、カセットテープなども用いた。

＜結果と考察＞

本研究の対象園はゴム・ヤシ油農園、米作などによる入植地でありマレーシアの辺境地区に開園されている。入植者の99%はマレー系でイスラム教徒である。マレーシアの初等教育(小学校)の就学率は97%、日本の高校2年に相当する上級中等教育の就学率は56%である。本研究対象者の内上級中等学校卒業者はSP保育園の元保育者2名のみであり、殆どが小学校卒である。

遊びの変化と要因

FELCRAの3保育園における1990～95年当時と2000～2001年現在の子どもの遊びは4分類される。

1. 当時も現在も見られる遊び。2. 当時は見られていた遊び。3. 現在のみ見られる遊び。4. 当時見られた遊びが変化したと思われる遊び。この内2.の遊びに分類された砂場での遊びを取り上げ論じていく。

「砂場での遊び」はRC 保育園では全く行われず他の2保育園でも年2回程度しか見られない。3保育園共に現保育者は小動物の糞害や父母からの苦情を理由に砂場での遊びを意図的にやらせないようにしている。

「ここ1～2年は遊んでいません。猫が砂場に糞をするんです。もちろん子ども達は砂遊びが好きなので外に出ると砂場で遊ぼうとしますが私たちは遊ばないように、ことばをかけてます。とにかく問題は不衛生だと言う事なのです。」

(現保育者ST2氏・2000)

他方、元保育者は園児のことばの発達を促し社会性が培われると考え、糞害対策として砂場に覆いをしたり父母会や保育参観を設け砂場での遊びによる効果を理解してもらうよう努めていた。

「子どもにとって砂場での遊びはとても必要だと思う。子ども同士で遊ぶ時いろいろ話しをする

し、いろいろな友達との関わりが生まれてくるから。」(元保育者RC5氏・2000)

「子どもは砂場遊びが大好きだったし父母には砂場遊びの後は行水するから不潔にならないと話したんです。動物や猫の糞などは子どもが遊べるようきれいに取除いたので父母も解ってくれたと思います。私たち(保育者)が説明しないと父母はわからないでしょう。」

(元保育者RC7氏・2000)

つまり現保育者と元保育者の「砂場での遊び」に関する考え方や保育環境設定についての取り組み等が遊びの変化に繋がったのである。

両者は共にマレー系でありイスラム教徒、同地区内の住民である事から、民族、宗教の違いは見られない。相関分析の結果、年齢や年齢幅、学歴、保育経験年数の関連性も認められなかった。しかし、元保育者は全員がJOCV保母隊員から保育技術に関する指導を受けており他方、現保育者は全員がJOCV保母隊員活動収束後にFELCRAの保育園で就労開始している。これにより両保育者の前述のような考え方や保育環境への取り組みの差違はJOCV保母隊員との関わりの有無との関連性であるといえよう。

異文化の受容

元保育者がJOCVとの関わりにおいて異文化と意識しているのは次の4視点が考えられる。1.JOCV所属の外国人で有ること、2.保育に関する考え方、3.保育内容の違い、4.保育園での保育である。この内、元保育者16名中13名は、2.と3.の「JOCVの保育に関する考え方や保育内容」について自己との差違を感じており異文化であると意識している。その内容はつぎの6つに分けられる。

1.保育に関する考え方が広いとする漠然とした事、2.躰けに関する考え方、3.新しい遊びと、それを導入しようとする考え方、4.年齢別保育の導入、5.子どもとの関わり方、6.その他。具体的な遊びや遊具などのように目に見える物よりむしろ、考え方が保育者自身より広いと感じたり、遊びの導入しようとする考え方について差違を感じている。

更に16名の内15名は「自己の保育に関する考え方にJOCVの影響があった。」と述べており、内14名は、それが自分自身の保育に関する考え方や保育内容に反映されていると認識している。これは先に述べた「砂場での遊び」が園児の成長に望ましいとする考え方や園児の遊びが出来る保育環境設定の為に小動物の糞害対策、父母への保育理解のための啓発活動などに反映されている。

「以前は砂場での遊びが不衛生だと考えていましたがJOCVの保育指導を受けてから砂場での遊びを行ってもよいと思うようになりました。」

(元保育者RC8氏・2001)

更に保育者としての責任や誇りを持つようになったと元保育者ST9氏はのべている。

まとめ

JOCVの保育技術指導を受けたFELCRAの保育園の保育者の異文化受容について明らかにする為、次の1と2について保育者から聞き取り調査を実施した。

1・1990～1995年および2000～2001年の子どもの遊び

2・JOCVの保育指導による異文化と意識した事など

結果、1の遊びには当時のみ行われ現在では見られなくなった遊びがみられた。砂場での遊びも、その一つであり、現在見られなくなった要因は両保育者の保育に関する考え方や保育環境設定などの取り組みが、当時と現在とでは異なることであった。この差違はJOCVの保育指導を受けた経験の有無との関連性にあった。JOCV活動期にある1990～1995年に勤務してした元保育者は全員退職しており、2000年以降の遊びについて話している現保育者はJOCV活動収束後に勤務している。

また2について元保育者は、JOCVの保育に関する考え方や保育内容を異文化と意識しており、自己の保育に関する考え方や保育内容は、それらの影響があると認識している。砂場での遊びが1990～1995年当時見られていたのも行われなくなったのも異文化と意識したJOCVの保育に関する考え方の影響によるものであろう。

つまり元保育者はJOCVの保育技術指導をとおしてJOCVの保育に関する考え方や保育内容を異文化として意識し、それを自己の保育に関する考え方や保育内容に反映しており、保育者の異文化受容は遊びや保育内容に関する考え方の受容であった事が明らかとなった。

今後の課題

FELCRAの保育園はマレーシアの保育施設の一端でしかない。多民族の異なった文化が混在するマレーシアの保育者の異文化間理解について、今後も研究を深めていきたいと考えている。

注1) 参考文献は当日配布資料参照

謝辞)FELCRA RC、FELCRA ST、FELCRA SPの各保育園の保育者および元保育者の皆様に感謝致します。